

# 検査値からわかる副作用の重症度分類 (市大センター病院 ver.)

副作用項目	副作用の重症度				
	Grade1 (軽度)	Grade2 (中等度)	Grade3 (重度)	Grade4 (生命を脅かす)	
白血球減少 / $\mu\text{L}$	<3,300–3,000	<3,000–2,000	<2000–1000	<1,000	
好中球数減少 / $\mu\text{L}$	<2,000–1,500	<1,500–1,000	<1,000–500	<500	
貧血 g/dL	<13.8–10.0	<10.0–8.0	<8.0；輸血を要する		生命を脅かす ；緊急処置を要する
血小板減少 $10^4/\mu\text{L}$	<18–7.5	<7.5–5.0	<5.0–2.5	<2.5	
AST増加※ U/L	>30–90	>90–150	>150–600	600<	
ALT増加※ U/L	(男) >42–126 (女) >23–69	(男) >126–210 (女) >69–115	(男) >210–840 (女) >115–460		(男) 840< (女) 460<
T-Bil増加※ mg/dL	>1.5–2.25	>2.25–4.5	>4.5–15		15<
クレアチニン増加 mg/dL	(男) >1.07–1.605 (女) >0.79–1.185	(男) >1.605–3.21 (女) >1.185–2.37	(男) >3.21–6.42 (女) >2.37–4.74		(男) 6.42< (女) 4.74<
高カリウム血症 mmol/L	>4.8–5.5	>5.5–6.0	>6.0–7.0		7.0<
低カリウム血症 mmol/L	<3.6–3.0 で症状がない	<3.6–3.0 で症状がある；治療を要する	<3.0–2.5 入院を要する		<2.5 生命を脅かす
高カルシウム血症 (補正值) mg/dL	>10.1–11.5	>11.5–12.5 症状がある	>12.5–13.5 入院を要する		13.5< 生命を脅かす
低カルシウム血症 (補正值) mg/dL	<8.8–8.0	<8.0–7.0 症状がある	<7.0–6.0 入院を要する		<6.0 生命を脅かす
低ナトリウム血症 mmol/L	<138–130	125–129 症状がない	125–129で症状がある 120–124で症状の有無は不問		<120 生命を脅かす
低マグネシウム血症 mmol/L	<2.0–1.2	<1.2–0.9	<0.9–0.7		<0.7 生命を脅かす

※ ベースラインが異常値の場合、別途に規定あり。

Common Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) ver.5.0 を参考に一部改変

# 身体状況からわかる副作用の重症度分類 (市大センター病院 ver.)

副作用 項目	副作用の重症度		
	Grade 1 (軽度)	Grade 2 (中等度)	Grade 3 (重度)
食欲不振	食欲は落ちたが食生活に変化なし	体重減少・栄養失調を伴わない摂取量減少、 経口栄養剤による補充が必要	顕著な体重減少 or 栄養失調を伴う 経管栄養/点滴加療を要する
体重減少	ベースラインより5- < 10%の減少 治療は要さない	ベースラインより10- < 20%の減少 栄養補給が必要	ベースラインより≥ 20%の減少 経管栄養/点滴加療を要する
悪心	吐き気あり、食生活は変化なし	吐き気あり、体重減少・栄養失調・脱水を 伴わない食事量の減少	吐き気あり、食事・水分が殆どとれない 経管栄養/点滴加療/入院を要する
嘔吐	治療を要さない	外来での点滴加療を要する ; 内科的治療を要する	経管栄養/点滴加療/入院を要する
口腔粘膜炎	症状がない or 軽度の症状 食事の変更はない	経口摂取はできるが、痛み・潰瘍あり 食事の変更が必要	強い痛み 経口摂取できない
下痢	通常回数+3回以内の増加	通常回数+4-6回の増加	通常回数+7回以上の増加
下痢 (ストマ)	ベースラインより排泄量の軽度増加	ベースラインより排泄量の中等度増加 身の回り以外のことによる影響あり	ベースラインより排泄量の高度増加 身の回りのことができない
便秘	不定期 or 間欠的な症状 下剤や食事の工夫が必要	定期的な下剤の使用、持続的な症状 身の回り以外のことによる影響あり	下剤を使用しても便がでにくい 身の回りのことができない
末梢神経障害	違和感がある	中等度の症状 身の回り以外のことによる影響あり	高度の症状 身の回りのことができない
倦怠感	だるさ or 元気がない	だるさ or 元気がない 身の回り以外のことによる影響あり	だるさ or 元気がない 身の回りのことができない
疲労	休めば疲れがとれる	休んでも疲れがとれない 身の回り以外のことによる影響あり	休んでも疲れがとれない 身の回りのこともできない
手足症候群	痛みのない皮膚の腫れ、赤み、 爪の変形・色素沈着、違和感	痛みのある皮膚の赤み・腫れ・ 水ぶくれ・出血・爪の著しい変形や脱落 身の回り以外のことによる影響あり	強い痛みを伴う皮膚のはがれ・ 水ぶくれ・出血・ただれ・かさぶた 身の回りのことができない